

業務 1

会員委託

海女文化を活かした活性化構想計画策定、 検討の経緯

項目	内容	関係機関	関係者
策定	第 1 回構想計画策定検討委員会で示された方向性	兵庫県	大 塚 三 (男員委)
検討	観光ワーキンググループ	兵庫県	大 塚 三
	水産ワーキンググループ	兵庫県	大 塚 三
	教育ワーキンググループ	兵庫県	大 塚 三
	文化ワーキンググループ	兵庫県	大 塚 三
	海女への聞き取り調査から	兵庫県	大 塚 三
	第 2 回構想計画策定検討委員会で示された方向性	兵庫県	大 塚 三
	第 3 回構想計画策定検討委員会で示された方向性	兵庫県	大 塚 三

第 1 回構想計画策定検討委員会で示された方向性

観光ワーキンググループ

水産ワーキンググループ

教育ワーキンググループ

文化ワーキンググループ

海女への聞き取り調査から

第 2 回構想計画策定検討委員会で示された方向性

第 3 回構想計画策定検討委員会で示された方向性

I. 第1回構想計画策定検討委員会で示された方向性

平成28年9月15日(木) 13:00~17:00 鳥羽商工会議所2階中会議室

検討委員会

分類	所属	役職	氏名	専門等
外部委員	東京海洋大学	准教授	小暮修三	海洋政策文化学
	上智大学	教授	あん・まくどなと	環境歴史学
	韓国東義大学	教授	劉亨淑(ユヒョンソク)	観光
(委員長)	三重大学	副学長	吉岡基	生物資源学
	三重大学	教授	塚本明	人文学
地域代表	鳥羽磯部漁協	常務	藤原隆仁	漁業
	鳥羽市観光協会	会長	吉川勝也	観光
	鳥羽商工会議所	専務	清水清嗣	商工
(副委員長)	海女振興協議会	会長	石原義剛	海女

1. 鳥羽市の地域創生

鳥羽市の活性化につながる構想計画であることが主目的である。

なぜ海女が重要であるか認識を共有し、関係者はもとより広く市民への啓発が重要である。

2. 海女と海女を抱える漁村集落の存続

健全な海女文化の存続が最も重要な命題である。

そのためには、海女を抱えた漁村集落を活性化し存続させることが前提である。

3. 水産資源と環境

海女漁の水産資源について現状調査し、資源管理や増殖に取り組むことが重要である。

海洋環境保全の問題とも密接にかかわる。

4. 総合的活用

海女文化は多様でありさまざまな見地から活用が可能である。

観光面への配慮が必要であり、表面的・イメージ的なものに留まらず、本質的な海女文化を利活用するべきである。

関係団体(民間団体・行政・研究機関等)の統合性と連携が重要である。

5. 付加価値の創成

漁獲物のブランド化に取り組み、消費者(市民・観光客)に認知されることが必要である。

6. 海女振興を支える資金づくり

公的助成に加えて、保存継承活動を支える資金を確保する仕組み作りが必要である。

7. 情報蓄積

多様な海女文化の総合的かつ専門的な研究を積み重ねることが重要である。

8. 後継者対策

海女の働き方の魅力を積極的に発信し、地元外から後継者を求めることも大切である。

一方で、受け入れる側は従来の慣習や制度にこだわらず、改めるべきは改める取り組みも不可欠である。

Ⅲ. 水産ワーキンググループからの提言（※「水産資源育成構想検討会」からの意見も一部含む）

9月29日（木）13：30～17：00 鳥羽商工会議所2階中会議室

分類	所属	役職	氏名	専門等
委員	鳥羽磯部漁協	総務指導課長	森田透	
	三重県漁業協同組合連合会	企画開発部長	小野里伸	
	三重県農林水産部水産資源課	課長	長濱亨	
	三重大学	准教授	松井隆宏	生物資源学
	北村物産(株)	専務取締役	北村裕司	
鳥羽市	農水商工課	係員	榊原友喜	

1. 海女存続のために

(1) 労務環境の整備

海女小屋や海女の作業通路などを、実情と観光面にも配慮した内容で整備する。
 漁獲物の陸揚げなど、高齢化に伴って作業負担になっている作業をサポートする体制を検討する。
 アワビの増殖に取り組むとともに、アワビ以外の需要の高いものにも範囲を広げるなど、収入増につなげる。

(2) 休漁時期の活用

年間を通じての就労の機会をつくるなど副業の斡旋体制を作る。
 漁獲方法、海洋環境、資源管理、健康管理など、新たに科学的に裏付けされた海女漁にかかわることをマニュアル化する。
 マニュアルを元に海女の勉強会を開催し海女のレベルアップをはかる。
 漁場管理やアワビ増殖への取り組みを組織化して行う。

(3) 後継者育成

地域外から後継者を迎えるきっかけづくりとなる事業を、観光施設などとも連携して取り組む。（海女スクール）
 後継者を受け入れるため、住環境、副業、指導などあらゆる面での問題点の抽出と対策を講じる。
 海女文化継承の重要性を理解し、漁村集落における意識改革と制度の見直しなどに取り組む。


2. 海女文化を活かした水産業の振興

・ブランディング

「海女もん」(※)ブランドの拡充とPRにつとめる。
 都市部での需要に対応できる販売流通システムを確立する。
 一方で地産地消型の販路を整備する。

「水産資源育成構想検討会」

- ※アワビの増殖方法について専門家と漁業関係者で以下の内容を検討中
- ・稚貝放流の効率化
 - ・稚貝育成の方法
 - ・稚貝中間育成の取り組み
 - ・稚貝の住処づくり（漁場改良）
 - ・その他育成構想に関する検討



鳥羽・志摩 海女もん

このマークは、鳥羽・志摩の海女が採捕した水産物の共通ブランドであることを保証します。

「海女もん」は、鳥羽志摩地域の海女が採捕した水産物の共通ブランドで、海女振興協議会が海女漁業の振興のため、ブランド化に取り組んでいます。

Ⅱ. 観光ワーキンググループからの提言

9月27日(火) 13:30~17:00 鳥羽商工会議所2階中会議室

分類	所属	役職	氏名	専門等
委員	鳥羽市観光協会	副会長	江崎貴久	
	鳥羽商工会議所	課長	小崎則彦	
	ミキモト真珠島	取締役	柴原昇	
	鳥羽市旅館組合連合協議会	会長	寺田順三郎	
	相差観光協会	協会長	野村秀光	
	三重県観光局	課長	可能明生	
	三重大学	教授	豊福裕二	人文学
鳥羽市	観光課	係長	松岡孝治	

1. 既存取組事業の充実と見直し

(1) 海女を活かした観光

海女小屋観光が鳥羽観光のメニューとして定着しているものの現状は「食」と「海女との交流」が中心である。

海女がいる漁村集落ごとに観光に対する意識が異なり、取り組み状況に差がある。(先進地は相差地区・出漁日など漁にも地域差がある)

海女がいる漁村集落は公共交通機関の便が良くない。

(2) 一般観光と海女のかかわり

海女を活用したエコツーリズムメニューを充実させたい。

鳥羽観光の目的は圧倒的に「食」が占める。海女の漁獲物の積極利用(海女の漁獲物であることを明確にしていない(できない))が必要。

漁だけではなく伝統文化を総合的に活用したい。(信仰や祭礼行事など、口開けの日、解禁日など)

2. 新たな事業展開

(1) 海女文化の伝え方・見せ方

実際の海女(漁をしている・作業をしている)に逢う観光に取り組む。

そのためには、海女小屋の整備が必要であり、労務環境整備と景観向上の両観点からの取組が必要である。

整備に際して、観光目的に美しくするのではなく、海女の生活感を感じられるものとすべきである。

海女文化を総合的に紹介する拠点施設の整備や、既存施設との連携が必要である。

観光客向けのトイレ整備も不可欠である。

(2) 海女スクール(※)の開設

「食」「漁労」以外の海女文化にも着目し様々な切り口での活用を行う。

海女と一緒に潜水をするなどのメニューが考えられ、後継者育成にもつなげる。

※海女スクール

韓国西帰浦市ボブファン洞に2015年に海女をより専門的に養成する「ボブファン海女学校」が開設された。地域の海女を直接教師資源として活用するための教師養成クラスをはじめ、海女養成クラス、海女文化解説者の半分、海女文化体験半分の4つのコースで運営されている。ここでの受講生は、2ヶ月の間潜水技術と水産物採取・乾燥方法などの専門的な海女実務教育を受ける。

この先進事例情報を踏まえ、検討委員会及び各ワーキンググループから、それぞれの視点で「海女スクール」として提案がなされた。そのために、本項を含め以下のそれぞれの提言で述べられている「海女スクール」が意味するところは異なっており、最終的な事業提案でとりまとめている。

IV. 教育ワーキンググループからの提言

9月23日（金）13：30～17：00 鳥羽商工会議所4階かもめホール

分類	所属	役職	氏名	専門等
委員	海の博物館	学芸員	縣拓也	
	東京大学海洋教育促進センター		鈴木悠太	
	鳥羽水族館		杉本幹	
	三重大学	教授	山田康彦	教育学
	三重大学	教授	荻原彰	教育学
鳥羽市	教育委員会	課長	浜田浩	
	弘道小学校	校長	小野礼子	

1. 教育素材としての海女

・海女文化の意義を確立する

地域資源の中でなぜ海女文化をクローズアップするのかその意義の確立と地域社会への啓発が大切である。

産業、自然、歴史、民俗、環境、文学など多方面からの学習素材となる。

海女文化の価値を理解することにより、海女に誇りが持て後継者育成にもつながる。

2. 鳥羽市・三重県における学校教育

(1) 地域教育カリキュラムの構築

総合的地域教育カリキュラムのテーマとして取り扱えることが可能であり、導入には高度な研究とカリキュラム策定が必要となる。

(2) 副読本の作成

現状では「昔の暮らし」として1ページ程度の扱いであるが、充実させる必要がある。

(3) 指導者教育

小中高教員への継続した指導が必要であり、サポートするコーディネータの存在が不可欠である。

3. 海女文化教育の展開

(1) 多方面への波及

海女の文化的価値は多方面に及び海女を調べることは地域学に留まらない。

幅広い分野があり、社会教育の素材になる。

海洋教育の一素材として他地域の児童生徒を受け入れることができ、集客交流も期待できる。

(2) 拠点施設

海女文化について情報を収集し、目的に応じてカリキュラム化し、実践することも可能な拠点施設が必要である。

V. 文化ワーキンググループからの提言

9月12日（月）13：30～17：00 鳥羽市民文化会館3階中央公民館

分類	所属	役職	氏名	専門等
委員	三重大学	名誉教授	目崎茂和	
	文化財調査委員		山本実	
	ミキモト真珠島真珠博物館	館長	松月清郎	
	三重大学	教授	塚本明	人文学
	皇學館大学	教授	櫻井治男	文学部
鳥羽市	教育委員会	主査	豊田祥三	

1. 海女文化の多様性

(1) 海女文化のカテゴリー

海女文化は多様性があり、研究が進んでいる分野、全く行われていない分野が混在しているため、総合的に研究や情報蓄積を行うことが大切である。

想定される海女文化のカテゴリーには次のものがある。

- ・漁労技術（潜水・資源保護など）
- ・食（漁獲物）
- ・人類学（骨相など）
- ・文学
- ・歴史学／考古学
- ・社会学
- ・民俗学／宗教民俗学
- ・生活文化学
- ・環境学
- ・女性（働き方・特性・など）

(2) 文化的価値の活用

上記のカテゴリーに沿って情報を集積し発信していくことで、各分野における海女研究の活性化につなげる。

海女文化は世界に類を見ない独自のものであり、さまざまな分野の研究者を惹きつける事業を行う。学校教育・社会教育・カルチュラルツーリズムに展開する。

漁業としての海女の存続は社会的条件から困難な状況であり、文化的な価値を保存継承するという意義を付加して取り組む。

2. 拠点施設の設置

(1) 総合的な海女文化拠点施設の整備

総合的に海女文化を情報収集し発信する拠点施設を設置する。

拠点施設は海女振興、研究、集客交流機能、受発信機能を持つ海女に関するワンストップセンターとする。

(2) 既存施設の活用と連携

拠点施設として海の博物館を活用する。

ミキモト真珠島や鳥羽水族館などの民間施設、県立総合博物館など、既存施設と連携を進める。

VI. 海女への聞き取り調査からの提案（労働環境・後継者問題に関する事項）

1. 安心・安全・健康な働く環境整備

<p>(1) 海女のための集合施設の整備 海女が操業前後に、着替え・暖を取り・身体を洗い・休憩をする施設を整備する。 海女が集会をし、簡単な漁獲物の加工・保存をすることのできる施設を整備する。 あるいはこれらを兼用できる施設を整備する。 休漁期間中は、海女カフェの運営など、観光事業に利活用する。</p>		
<p>(2) 海女の労務負担の解消 海女の漁獲物を漁港まで、安全かつ容易に運ぶことのできる道路を整備する。 船による運搬方法を整備する。</p>		

2. 後継者対策

(1) 海女スクールの開校

海女に関する水産漁獲資源知識・技術・漁村共同体などの基礎を海女が習得する。

(2) 海女の漁業権取得条件の再検討

新たに海女になるための漁業権の取得・行使条件等。
諸問題について再検討する。

(3) 在住の既婚女性への啓発および海女着業条件の整備

漁業権を持つ家の海女漁を行っていない妻女等に海女の意義を伝える。
上記女性が海女になるための諸条件を整備する。

海女集落地域の
特性や要望に応じた
事業別モデル地区の検討

「調査・資料等による事業提案」

※海女に関する既存調査資料や調査からの提案

- ・既存調査報告書
- ・鳥羽市内海女聞き取り調査
- ・他県海女振興事業調査

Ⅶ. 第2回構想計画策定検討委員会で示された方向性

平成28年10月21日(金) 13:00~17:00 鳥羽商工会議所2階中会議室

検討委員会

分類	所属	役職	氏名	専門等
外部委員	東京海洋大学	准教授	小暮修三	海洋政策文化学
	上智大学	教授	あん・まくどなど	環境歴史学
	韓国東義大学	教授	劉亨淑(ユヒョンソク)	観光
(委員長)	三重大学	副学長	吉岡基	生物資源学
	三重大学	教授	塚本明	人文学
地域代表	鳥羽磯部漁協	常務	藤原隆仁	漁業
	鳥羽市観光協会	会長	吉川勝也	観光
	鳥羽商工会議所	専務	清水清嗣	商工
(副委員長)	海女振興協議会	会長	石原義剛	海女

1. 海女 = サスティナビリティ鳥羽

サスティナビリティ(sustainability)とは、「ずっと保ち続けることができる」の意味であり、社会と環境を両立させる「持続可能な発展」を意味する。

時代に即応しながらも、往古より自然と共生し資源保護と漁業を両立させてきた海女とその多様な文化はサスティナビリティのシンボルである。

海女文化を未来に継承し、さまざまな分野で活かすことが、鳥羽市にとってのサスティナビリティである。

2. 見える化

鳥羽は「海女の町」であることを印象付ける。

(1) アイコン・サイン

鳥羽が海女の町であることが、市民および観光客にひと目でわかるように、街中の案内看板や標識、マンホール蓋など、あらゆるシーンに海女をデザインする。

(2) ブランド推進

商標として現在取り組んでいる「海女もん」をはじめ、海女の漁獲物を積極的にPRし、市内消費や販売につとめる。

海女と接することができる機会を設ける。

(3) 労働環境整備

海女小屋(海女の作業場・控室)の整備を行い、休漁時期には観光施設としても活用する。

(4) 海女スクール

海女の指導や啓発、後継者の育成を行う。

海女文化に関する講座や体験プログラムの運営。

3. 推進体制の強化確立

海女文化を活かした事業を持続的に推進できる制度や組織、施設を整える。

(1) 海女振興推進条例の制定

海女振興を推進するための基本姿勢を示した条例を制定する。

(2) 海女振興推進セクションの設置

海女に関連する市役所内組織を横断的に連携し推進させることを目的とする。

国・県および関係市町、各種団体との連携強化をはかる。

(3) 海女文化拠点施設の整備

多様な海女文化の研究、情報収集発信を行うワンストップセンター。集客交流施設としても機能し、海女文化関連施設連携を行う。

会員委託先

(4) 市民啓発	学校教育、社会教育ともに海女文化について学び体験する機会を設ける。	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁
4. 多様化	多様な海女文化をさらに発展させる。	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁
(1) 環境問題への取り組み	藻場・海中林の保護など海の環境を守る活動へつなげる。エコ&カルチュラルツーリズムの実践。	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁
(2) 国際交流	世界の海女との交流を深め、海女文化の価値を再認識する。海女文化を日本文化の象徴として世界に向けて発信する。	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁	東京海上保安庁

Ⅷ. 第3回構想計画策定検討委員会で示された方向性
 平成29年3月2日(木) 13:30~16:30 鳥羽商工会議所2階中会議室
 検討委員会

分類	所属	役職	氏名	専門等
外部委員	東京海洋大学	准教授	小暮修三	海洋政策文化学
	上智大学	教授	あん・まくどなど	環境歴史学
	韓国東義大学	教授	劉亨淑(ユヒョンソク)	観光
(委員長)	三重大学	副学長	吉岡基	生物資源学
	三重大学	教授	塚本明	人文学
地域代表	鳥羽磯部漁協	常務	藤原隆仁	漁業
	鳥羽市観光協会	会長	吉川勝也	観光
	鳥羽商工会議所	専務	清水清嗣	商工
(副委員長)	海女振興協議会	会長	石原義剛	海女

1. 活性化構想計画書について

これまでの討議の内容や調査結果等から重要事項が取りまとめられ、欠如事項も無く、おおむね評価できる内容である。本日欠席の委員からの意見も聴取し、補完事項があれば加筆訂正するものとする。
 ただし、以下の点について、構成や見出し語の変更を促すものとする。

(1) 海女スクールについて

海女スクールが示す範囲が広く、後継者育成の要素か、観光客向けの要素が強いのか、実像としてどのようなものがイメージできているのかが不明瞭である。

海女スクールの言葉の定義が委員によって違うため、海女を養成するための機構設置の検討という表現とする。

(2) 検討体制における関係団体との連携について

周辺市との連携が大切であるが、本事業は鳥羽市の事業なので先行して鳥羽が行うことが重要であり、鳥羽市が実施計画をとりまとめて着実に実行していただきたい。

また、外部からみると鳥羽も志摩も伊勢も一体であり、おのずと志摩市等と連携する必要が生まれる。

(3) 食文化について

食文化は世界的な関心事であり、単なるグルメツアーに終わらせてはならない。学問的にも価値があり、海女文化を広めるために日本食の大きな流れに乗せることも重要である。

また、食材の限界という問題の解決策ともしたい。

(4) 海女文化拠点施設名について

海女文化は世界に発信できる価値がある。そのために海女文化拠点施設には、世界、国際などの表現を付けて発信して欲しい。

2. 活動の優先順位について

提案で示された優先順位の考え方には異論はない。

ただし、順位付けをするのが目的ではなく、この構想計画が確実に実行されるには何から着手すべきか、重要度と緊急度に分けて整理し、示すことが重要である。

重要度が高いのは「推進体制の整備」、緊急度が高いのは「守る活動」に集中する。

IX. 検討委員会およびワーキンググループ座長会議

平成 29 年 11 月 1 日 (火) 18:00~20:00 三重大学社会連携研究センター3 階研修・会議室 (307 室)

◇出席者

氏名	担当部会	所属
吉岡基	検討委員会	三重大学
松井隆宏	水産WG	三重大学
豊福裕二	観光WG	三重大学
荻原彰	教育WG	三重大学
塚本明	検討委員会 文化WG	三重大学

欠席

石原義剛	検討委員会 文化WG	海女振興協議会
------	------------	---------

村田直		鳥羽市教育委員会
宮本益仁		鳥羽市役所

配布資料

- ・海女文化を活用した活性化構想事業 検討会討議概要 16 年 11 月 1 日版
- ・具体的な事業提案 (上記抜き刷り)

1. 趣旨説明 事務局

これまでの検討の結果を、配布資料①に沿って説明。

その上で、具体的な事業案を配布資料②としてとりまとめた。

この内容に対して意見を求めたい。

なお、この会議は当初計画にはなかったが、三重大学在籍の委員が各部会の座長となってとりまとめているため、アドバイスを行う立場として、この会合を急遽設けた。(配布資料①「検討体制」参照)

この内容を中間報告としてとりまとめ、次年度予算要求資料として活用させたい。

したがって、優先度が高く早期に取り組む課題を抽出したい。

2. 意見

(1) 水産WGについて

資源増殖に関しては別のグループ(業務③)でとりまとめており、優先すべき重要な課題である。

この部会では後継者育成に対する課題解決策の比重が高い。

新規参入については漁業権の問題があり、重要かつ悩ましい問題である。

この問題については、漁業権行使規則として鳥羽市におけるローカルルールの検討を打ち出す必要がある。

労務環境整備の課題は、改善できる内容、地区から着手

漁業環境の問題については、本資料に提示されていないが、密漁対策についても取り組むべきではないか。

環境面での取組、藻場の再生などについても言及すべきである。

(2) 文化WGについて

文化WGの取りまとめ方が、現状における問題点を提示した表現になっており、他の部会と統一する必要がある。

海女スクールについて、各部会の考え方や取り組む内容に異同がある。

取りまとめると以下の5点となる。

- ・新人海女の育成
- ・海女文化に関する情報収集と市民への教育
- ・情報発信

- ・研究者向けの海女カレッジ
- ・海女自身への啓蒙

(3) 観光WG

観光分野では海女の漁獲物の流通コントロールが論点の一つである。
観光客が鳥羽へ来るメリットと海女文化や漁獲物を上手くリンクさせる必要がある。
アワビ以外の海藻などの漁獲物を観光資源に育むかも課題である。
このような課題に対し、推進態勢をしっかりと整えて、着実に取り組む必要がある。

(4) 教育WG

新指導要領では小学校では英語の時間が増え、中学校では学力調査に傾注することから、教師が新たな学習素材に対して取り組む余裕がないのが現状である。
そのために、海女文化をカリキュラム化するコーディネータと自薦するための拠点整備が必要である。
中等教育においても同様の問題があり、教育委員会の理解を得た上で、教材の開発やコーディネータの要請を、拠点施設と連携して行っていかなければならない。

(5) 推進体制について

鳥羽市の事業として海女文化を活かすことを明確に示し事業を推進することを目的とした基本条例の制定を提案したい。
また、関係各部署と横断的に連携調整する専任セクションを設置し、事業推進してほしい。

※ 当日欠席となった吉岡委員から、後日ヒアリングした内容を含む。

以上

アワビWG基本(1)

あわび関係は重要さを決断し、(5)経費)で一歩の進め方について検討する。
あわび関係は重要さを決断し、(5)経費)で一歩の進め方について検討する。
あわび関係は重要さを決断し、(5)経費)で一歩の進め方について検討する。
あわび関係は重要さを決断し、(5)経費)で一歩の進め方について検討する。

アワビWG計画(2)

あわび関係は重要さを決断し、(5)経費)で一歩の進め方について検討する。
あわび関係は重要さを決断し、(5)経費)で一歩の進め方について検討する。
あわび関係は重要さを決断し、(5)経費)で一歩の進め方について検討する。
あわび関係は重要さを決断し、(5)経費)で一歩の進め方について検討する。